

野添連合自治会防犯研修会 平成29年12月8日(金) 18:00～ 多目的ホール

野添コミセン区の各区自治会の自治会長・防犯担当及びは一とふる野添の地域安全まちづくり推進員の合同防犯研修会が実施されました。兵庫県防犯設備協会の島田竜也氏を講師に迎え約1時間弱の講演をしていただきました。

お話の中で一番印象に残ったことは、「防犯を考える上で、まず知っておいてほしい3つのキーワード」でした。

1. 人は簡単に騙される

新聞等で振り込め詐欺の記事を見て、騙される被害者がおかしいと思う人がたくさんいるが、自分は大丈夫だと思っている人ほど騙されやすい。

2. 防犯とは何かを改めてしっかり考える

犯罪を防ぐと一言で言っても「どのような犯罪に対して何を守るのか。」をはっきりする必要があります。例えば、ひったくりを例にするとお金などの財産ではなく自分の身を守るためならば鞆はとられやすいように肩掛けの方が安全というようにしっかり課題を把握して目的を明らかにすることが重要である。

3. 犯罪は立場によって考え方がいろいろある

情報を鵜呑みにしない。まずは自分の目で見えて自分で考えることが重要である。一人一人が自分で犯罪に遭わないよう工夫したり努力することが重要である。空き巣や泥棒は昼間のちょっとした隙間時間に入ってくる。相手は常に狙っている。自分が犯罪者の立場に立って考えることが大切である。

私達の身近で起きている犯罪をなくしていく方法は、ソフト面とハード面でしっかり考える必要がある。具体的な抑止力のあるハード面の改善だけでは片手落ちである。地域の人々の結びつきが強いところは不審者を発見するにもたくさんのアンテナがあるので容易になる。そして何より、人に迷惑をかけるようなことはしないというたったひとつのモラルを常に意識するだけで、人の心の中に犯罪を犯さない強い意志が育っていくのではないかと思う。そういう地域の空気を作っていくのが本当に大切だと思います。

「自分だけは被害者にならない」という思い込み(心の隙)が犯罪者の狙い目といわれるが、犯罪をする者が悪いに決まっている。かつて家の鍵を心配する必要がなかった時代があるほど日本人は自律していたといわれています。己自身を常に見つめ鍛えることが今本当は求められているのではないのでしょうか。

